

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市 錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	何が幸せ?	-----	塚原謙二	縁	-----	市村紀子
3 ページ	ピアノ	-----	佐藤道惇	土用のうなぎ	-----	宮本定雄

小名木川

小名木川と言うのをご存知ですか。先日、東京探検リバークルーズと言う企画に乗って、船でこの川を回遊しました。

家康が天正十八年（一五九〇）、秀吉の命で関東に領地替えとなった年に、行徳（市川）の塩を江戸に運ぶために開削された運河です。現在の江東区の隅田川から旧中川迄で、延長4.64 あります。又、旧中川から先は旧江戸川沿いの行徳までは新川が開削されました。江戸入り直後の諸事忙しい中、何故塩の搬送のためにこれ程の大事業を起したのか。摂りすぎで減塩を言われている現在の感覚から言う中々理解が出来ません。塩は食べてエネルギーになるものではないけれど、我々

横山 詔正

の体の中にあるものをぐるぐる回して行って、最後には排泄させると言う、循環の機能を助け、そして健康を保全する為に必要なものです。又、戦国期において塩は食物の保存の為に絶対

に必要なものであり、籠城する場合には、無くてはならないものでした。家康は行徳の製塩を「御軍用第一之事、御領地一番の宝」と言い、保護育成の為に千両を与えたと伝えられています。今の感覚で言うと石油と同じくらい重要な戦略物資だったわけです。

ですから、海伝いでは、江戸川、中川、隅田川河口部の流れの変化、暴風等に耐えられずに、舟運に支障をきたす事を恐れ、何時でも確実に運べる様に運河を開通させたと考えられます。

その当時の塩の製法は塩浜に海水を撒き、天日に当て、水分を蒸発させ更に、濃縮した液（鹹かん）

水すい）を釜に入れて煮詰めて作りました。気候条件や広大な砂浜も重要な要素でしたが、何より燃料確保が最重要課題であったと思えます。その点行徳は上流の山岳、山林地域からの薪・炭を江戸川の水運を利用して運ぶ事が出来たようです。

十七世紀半ばに、利根川の流路を江戸から銚子へ変えた事により関東、東北からの米を中心にした物資の江戸への輸送の大動脈として、行徳、小名木川の役割は更に増し、又江戸からの観光遊覧の重要な拠点として発展していきました。

今は、この川の途中には、パナマ運河に見る閘門こうもん（川と川の間に水門を作って、水位を調節して船を通す、水のエレベーターと考えて下さい）が有り、川岸に遊歩道が整備されたり、又スカイツリーを巡る観光の重要拠点として再び脚光を浴びつつあります。

（編集委員）

何が幸せ？

世の中には自分の責任に關係ない辛い不運に苦しんでいる人も大勢いる。だから何が幸せなどという大命題を軽々に論じるとたちまちお叱りを受けることになる。

その一方で、経済的にも健康上からも社会生活上からみても別段の問題も無さそうである。むしろ恵まれているような人で、「私は運が無い」「私は損をしている」などと口癖の様に言っている人がいる。多分死ぬまで言っていると思う。

私は涙とともにパンを食べたような辛い経験は小学生のころ親父に叱られた時くらいで平平凡凡と日本男性の平均寿命まで生きてきた。

戦争中、学徒動員で戦闘機の組立て工場で働いていた時に一トン爆弾の雨の下で惨状を見た時も、食糧不足であれば骨が浮き出て飢えていた時も、当時は不幸とは感じてい

なかつた。周りも皆同じような環境にいたからだ。

人間の不幸不幸という感情は周りとの比較があるところで起きる極めて人為的なものかと考えている。もしそうだとすると、自分の意志でいくらかはコントロール出来る余地も無きにしもあらずか。

自分の足腰で歩け、自分の目で物が見え、花の香りも分り、食べたものが問題無く胃袋に届き翌日には引力と多少の息張りで排泄される、それが幸せの原点だと思ふ。それに加えてささやかな生活を維持できるお金があれば文句無し。それ以上の良いことはすべて有難いボーナスと思いたい。病院で手術後数日の間四本の管を体に繋がれて寝ていたときの実感です。

(大蛇町 塚原謙二)



縁えにし

人生とは閉ざされた扉を、一つずつ、自分で探してあてた鍵で開いていくものと言った人がいる。まさに試行錯誤しながら努力して歩むことである。しかし縁は全く予期しないのに天から下りてくるように、ふしぎな出会いを与えて下さる。親子二代の転勤族で、あの地この地、あの時この時、と次々に広がって大きな恩恵をいただいで、いくつかの扉を開くことができた。

K師は、よく縁について語って下さったが、やっとこの頃頷くことができるようになった。その時はわからない事が後になつて、一つ一つ符合してまるであぶり出しの絵のように思う。この先どのような絵を見ることが出来るのか楽しみにしつつ、身近な所から御縁を大切に、終点まで感謝いっぱい歩みたいと願っている。何の道であれ始める

事はたやすくも続けるといふ事は、色々な条件と共に強い意志が必要であると表している。「継続は力なり」だが、自分の継続の力は縁に導かれてきたのだと思える。先ず師との出会いである。自身をふり返ってみると、幼児教育二十年、モンテッソーリー教育十年、刺繍教育二十年、習字教室三十余年。すべて最高といえる師と友との出会いに恵まれて今日に至っている。計画を立ててのことは一つもない。すべて縁により誠実にモットーに歩ませていただいた結果である。

主人の定年退職後、縁あつて臼井に移り住んで三十余年。散歩に最適と選んだこの地は歴史的文化的香り高く自然にも大変恵まれている。加えて周囲の方々の善意好意に感じ入りながら「縁」に感謝いっぱい歩みをゆつくりと続けさせていただいている。

(新臼井田 市村紀子)

ピアノ

「両手の指を使っていればボケないと言われているので麻雀をやるのです」というのがふた昔前の雀鬼の言い訳でした。でもその後ほとんどが自動車になって、どう言い訳したのかな。

しかし手指を使っているとボケないというのはどうやら本当らしいので、喜寿の記念にピアノを習う事にしました。先生はカレッジの同級生の中で一番若い美人さんです。

目的はボケ防止ですから必ずしも上手くなる必要はありません。続けられればいいのです。そこで先生にお願いして、いわゆる教則本はやらずに、初めから曲をやらせてもらいました。この狙いが当たって、飽きることなく今年で六年続いています。

基本をやらないので当然上達は遅いのですが、それでも長くやっていると何時の間に

かレパートリーが増え、少しは上手になったような気がします。

ゴルフの場合、始めた年齢の半分のハンデまで行くと言われますが、他の習い事でも同じように遅く始めたなら進歩は少ないと思います。最近弾いている最中に指がつって途中でつかえてしまふ事が間々あります。そろそろハンデの上限かな。

習い始めてすぐ電子ピアノを買いました。この楽器の良ところは、音をいくらでも小さくできることです。家族やご近所に気兼ねすることなく、いつでも弾くことができます。

今でもテレビのクイズ番組で結構正解が多いから、確かにボケは進んでないと思います。皆さんも今からでも遅くない、始められたらいかがでしょう。

(鍋木町 佐藤道惇)

土用のうなぎ

石麻呂に 吾もの申す
夏瘦せに 吉しと云ふものぞ
武奈伎とり召せ

大伴家持が詠んだように、万葉の昔から夏バテによいとされてきたうなぎ。江戸時代に、醤油とみりんを混ぜたタレが発明されてからは、おいしくて精がつく、庶民のスタミナ食として定着。暑さが最も増す夏の土用の頃にうなぎを食べる風習が、土用のうなぎとして今に至っている。

産卵場は、日本のうなぎはフィリピン東方の海域で、ヨーロッパ、アメリカのうなぎは、大西洋の深海。

稚魚はシラスウナギ、ハリウナギなどと称し、春に川に上り、河川、湖沼、近海などに生息。

また、オオウナギは全長が二杯体重二〇以上に達する。熱帯性で、日本では千葉県以南に分布するが数は少なく、

天然記念物に指定されている。うなぎの修業の難しさは、「串打ち三年、焼きは一生」と例えられるほど難しい。

目の疲れに効くビタミンA、疲労回復のビタミンB1など、うなぎはビタミン、ミネラル類が豊富で、身体に良い油もたっぷり含有している。

スーパーで買ったうなぎをおいしく食べるには、電子レンジで三〇秒ほど加熱する。ただし、温めすぎると身がパサパサになるので、長くても一分弱が目安。お酒をかけるのは風味を損なうので不可。

変わったうなぎの食べ方としては、そうめんの上に一口大に切ったうなぎ、きゅうりの千切り、トマトの輪切りを乗せたうなぎそうめん。その他に、白焼きサラダとか、うざく(うなぎゅうともいう)酢の物はまた、格別美味であるそう。

(千成 宮本定雄)

7月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

せくら道

「梅檀せんたんは双葉より芳し」の諺にある梅檀の花は、今が見頃と言うニュースを聞き、早速佐倉城址公園の木を観察することにしました。

歴史民俗博物館正面側から公園に向かって歩きだすと、ロータリー横の高木が気になり、近づいてみました。「センダン」と名札がついていたので、持参した双眼鏡で見ましたがよく見え

ません。別の木の低い枝を見つけて観察すると、蕾と分かり、多分開花は二、三日後だろうと思いい公園を引き上げました。

そして、数日後再び公園に出向き、今度はくらしの植物園側から観察をすると、入口に一本、その先にも薄紫色の花（五弁花）を沢山つけていました。花粉症のため芳香の確認はしませんが、果実は漢方薬に、材は建築や器具の用材に使われるそうです。

（横山三寿）

あとがき

今月ご投稿頂いた塚原様の「何が幸せ？」は、まさにその人の考え方ですね。入院中に実感されたように自分の幸せは自分しか解らない、と言う事でしょうか。めぐりあわせとしての「縁」は、市村様の人柄そのものを発信されたものが、運命として今日まで歩まれた証だと思えます。二編共に、人生について再度深く考えさせられました。

次に何事も為せばなるで喜寿

の記念に「ピアノ」を習う事に挑戦された佐藤様が、最近更に頭脳が冴え、人生の歯車が順調に噛み合せて充実されている様子。読者の方々も是非何かに挑戦されては如何でしょうか。

最後に、今の季節に合った宮本様のうなぎは、一千年も前から夏ばてには「土用のうなぎ」と言われ、その栄養価と食し方まで詳しくお書き頂きありがとうございました。

（六角 学）